

平成27年度上水道事業会計当初予算(案)の概要

I 予算のすがた

収益的支出と資本的支出を合わせた予算総額は、1,245億46百万円となり、前年度に比べ、24億69百万円、1.9%の減少となっています。

収益的収入が前年度に比べ62百万円減の801億12百万円に対して、収益的支出が前年度に比べ3億91百万円減の736億63百万円であり、その結果、純利益は、37億92百万円となります。

(単位:百万円)(税込み)

区 分	27年度 当初予算案 ①	26年度 当初予算額 ②	対前年度比較		備 考	
			増減額 (①-②)③	比 率 ③/②		
収 益 的 収 支	収益的収入	80,112	80,174	△ 62	△0.1 %	給水収益 64,303 給水申込納付金 4,478 長期前受金戻入 7,318
	収益的支出	73,663	74,054	△ 391	△0.5 %	人件費 6,732 減価償却費 24,911 支払利息 3,434
	収支差益	6,449	6,120	329	5.4 %	
	消費税資本的 収支調整額等	△ 2,657	△ 2,372	△ 285	12.0 %	
	純利益	3,792	3,748	44	1.2 %	
資 本 的 収 支	資本的収入	13,113	13,277	△ 164	△1.2 %	企業債 8,000 国庫補助金 131
	資本的支出	50,883	52,961	△ 2,078	△3.9 %	建設事業費 39,641 企業債償還金 10,917
	収支差	△ 37,770	△ 39,684	1,914	△4.8 %	
	支出予算総額	124,546	127,015	△ 2,469	△1.9 %	

※資本的収支における37,770百万円の不足額は、消費税資本的収支調整額2,657百万円、過年度及び当年度損益勘定留保資金(減価償却費など)35,113百万円で補てんします。

[企業債残高の状況]

平成27年度末の企業債残高は、前年度に比べ29億17百万円減少し、1,533億36百万円となる見込みです。

(単位:百万円)

26年度末残高見込 A	27年度当初予算案			27年度末残高見込 A+D
	借入額 B	償還額 C	差引 D=B-C	
156,253	8,000	10,917	△2,917	153,336

II 主要事業の概要

中期経営計画 2011(計画期間:23~27年度)に掲げた5つの基本目標に沿って事業を推進します。

基本目標1 安全で良質なおいしい水をいつでも供給できる水道

◎ダム建設事業に係る分担金(ハツ場ダム) 5億92百万円

工期:昭和42年度から平成31年度 建設事業費の当局負担率3.3%

◎ちば野菊の里浄水場整備事業 4億85百万円

老朽化が進んだ栗山浄水場から、近接するちば野菊の里浄水場に機能を移転し、併せて、高度浄水処理機能を導入するための実施設計及び工事用進入路等の整備工事を行います。

整備規模 現栗山浄水場相当の18.6万m³/日

事業費 約446億円

施設整備 沈殿池、急速ろ過池、配水池、高度浄水処理施設

今後のスケジュール

平成26~27年度 施設整備に係る実施設計

平成27年度 工事用進入路等の整備工事

平成28~34年度 本体整備工事

平成35年度 稼働予定

◎浄・給水場の設備等の更新 113億61百万円

安定給水の確保と安全で良質なおいしい水づくりに重要な役割を果たしている設備を中心に、経年劣化等の状況を踏まえた計画的な更新を行うとともに耐震化を推進します。

○取水場の設備更新工事 78百万円

○浄水場の設備更新工事 59億89百万円

○給水場の設備更新工事 37億86百万円

○浄・給水場施設耐震化工事 13億73百万円

◎管路の整備・耐震化

228億45百万円

○铸铁管更新工事

148億13百万円

更新時期を迎える配水管の増加に対応して、計画的に更新工事を実施し、耐震化を推進します。特に東日本大震災の教訓を踏まえ、湾岸埋立地域については、耐用年数にとらわれず重要施設へ給水している管路を中心に更新を行います。

布設延長 74.1km

○送配水施設建設工事

21億24百万円

安定給水確保のための管路の新設及びニュータウン事業の進展に伴う管路の新設を行います。

第二北総～成田線送水管布設事業（布設延長 0.8km:6億26百万円）

千葉ニュータウン線（布設延長 8.3km:13億52百万円）

○公共関連配水管整備工事

30億46百万円

外環道等の公共工事に際して支障となる既設管の移設等を行います。

外環道関連工事（布設延長 5.5km:8億92百万円）

下水道等関連工事（布設延長 7.7km:21億54百万円）

◎おいしい水づくりの推進

57百万円

○残留塩素の低減化

17百万円

平均0.4mg/l以下（27年度目標）を目指して低減化に取り組みます。

塩素注入管理のためデータ収集と分析等を行います。

・連続測定装置による残留塩素濃度の測定

17百万円

○安全・安心・おいしい水づくりキャンペーン等

15百万円

・PRグッズ製作

・小学校等における水道出前講座

・ウォーターメイト（水質モニター）による蛇口水質モニタリング・意見交換

基本目標2 行き届いたサービスと高い技術力でお客様に奉仕する水道

○広報事業

60百万円

県水だよりの発行、ペットボトル水「ちばポタ」製造等

○体験型水道技術研修 7百万円

新規採用職員や他部局転入職員を対象に、仕切り弁操作、漏水調査等の技術研修を実施します。また、平成27年度から新たに中堅職員を対象とした、実務に必要な知識・技術を得られる研修を追加し、水道技術研修の充実を図ります。

○新料金システム開発運用事業【新規】 5億23百万円

使用開始から23年が経過した現行の料金システムの更新と併せて、下水道使用料徴収に必要な機能を付加することにより、上下水道料金徴収一元化に対応できるシステムの構築に着手します。

総事業費41億71百万円（平成27年度から34年度）

上下水道料金徴収一元化：平成30年1月から実施予定

実施対象市：千葉市、市原市、成田市、鎌ヶ谷市

基本目標3 地震等の非常時にも強い水道

◎危機管理体制の強化 14億24百万円

○危機管理体制の整備事業 1億63百万円

東日本大震災時の教訓を踏まえ、給水車の更新や応急仮設給水栓の備蓄など応急給水体制の充実を図るとともに、復旧用資材の備蓄倉庫の増設工事等を行います。

○配水管理テレメータ整備事業 12億61百万円

震災時等において、迅速に被害地区を把握し、効率的に復旧が図れるよう、測定機器（水圧計、流量計）の更新整備を行います。

基本目標4 環境に優しい水道

○浄水場発生土処理 6億8百万円

浄水工程において発生する汚泥を、セメント原材料や改良土としてリサイクルします。

基本目標5 安定した経営を持続できる水道

○情報化の推進 17億60百万円

現在運用中の20の情報システムについて使用機器類の共通化・管理の一元化を推進し、業務効率向上及びコスト抑制を図ります。